日本広告業協会 / 日本新聞協会

N-PDF ver1.3 (2022)、N-SIZE、NSAC2017 対応

京都新聞
広告制作・送稿ガイド (2025 年 4 月)

■改訂版の主な変更内容

◎問い合わせ先の局名を変更 (P27)

※原稿制作に関する変更はありません。

目次

■ PDF 送稿の特徴----------P1
■ 制作環境と送稿の流れ----------P2
■ 制作準備----------P3
■ 制作ルール----------P7
■ 制作ルール (広告原稿サイズ) ----------P8
■ 制作ルール (モノクロ原稿の注意点)------P14
■ PDF の作成----------P19
■ PDF のプリフライト ----------P20
■ Photoshop (カラー設定) ----------P23
■ Photoshop (画像補正) ----------P24

■ N-PDF について

日本広告業協会が、新聞社 73 社でのデータチェック、アンケート結果を踏まえ、新聞広告用の PDF ファイル制作ガイドを作成。N-PDF は [PDF/X-1a] に準拠し、AcrobatPro を使用することで送稿前のデータチェックが容易に行えます。本ガイドは『新聞広告デジタル制作ガイド N-PDF ver1.3 (2022) 』に準拠しています。

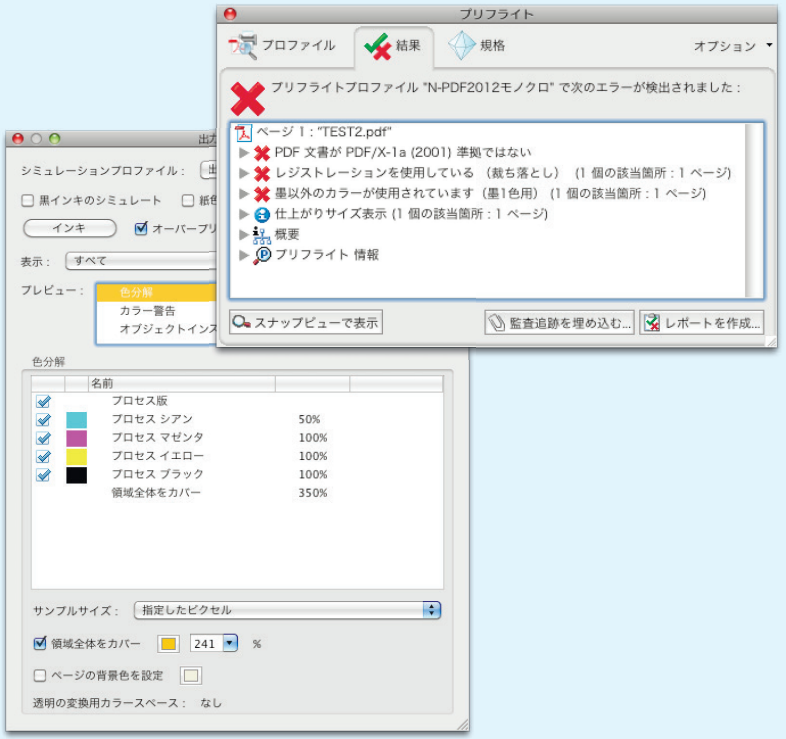
【日本広告業協会】https://www.jaaa.ne.jp/2012/06/n_pdf/

■ PDF送稿の特徴

データチェックが簡単！

送稿前にデータチェックができるので、再入稿の手間が省けます！

AcrobatProのプリフライト機能で、
エラー内容を一覧表示！



総インキ量のオーバーや、
オーバープリントの確認も簡単！

最新アプリケーションが使える！

IllustratorCCやPhotoshopCCが使えます！
カラー原稿ならInDesignも全てCCでOK！

保存が簡単！

細かな設定の変更は必要ありません！
始めに登録して「N-PDF」を選択するだけでOK！

容量が軽い！

全30段カラー原稿のEPSデータ（475MB）が86MB※に！
データのコピーも短時間でOK！

※自社調べ

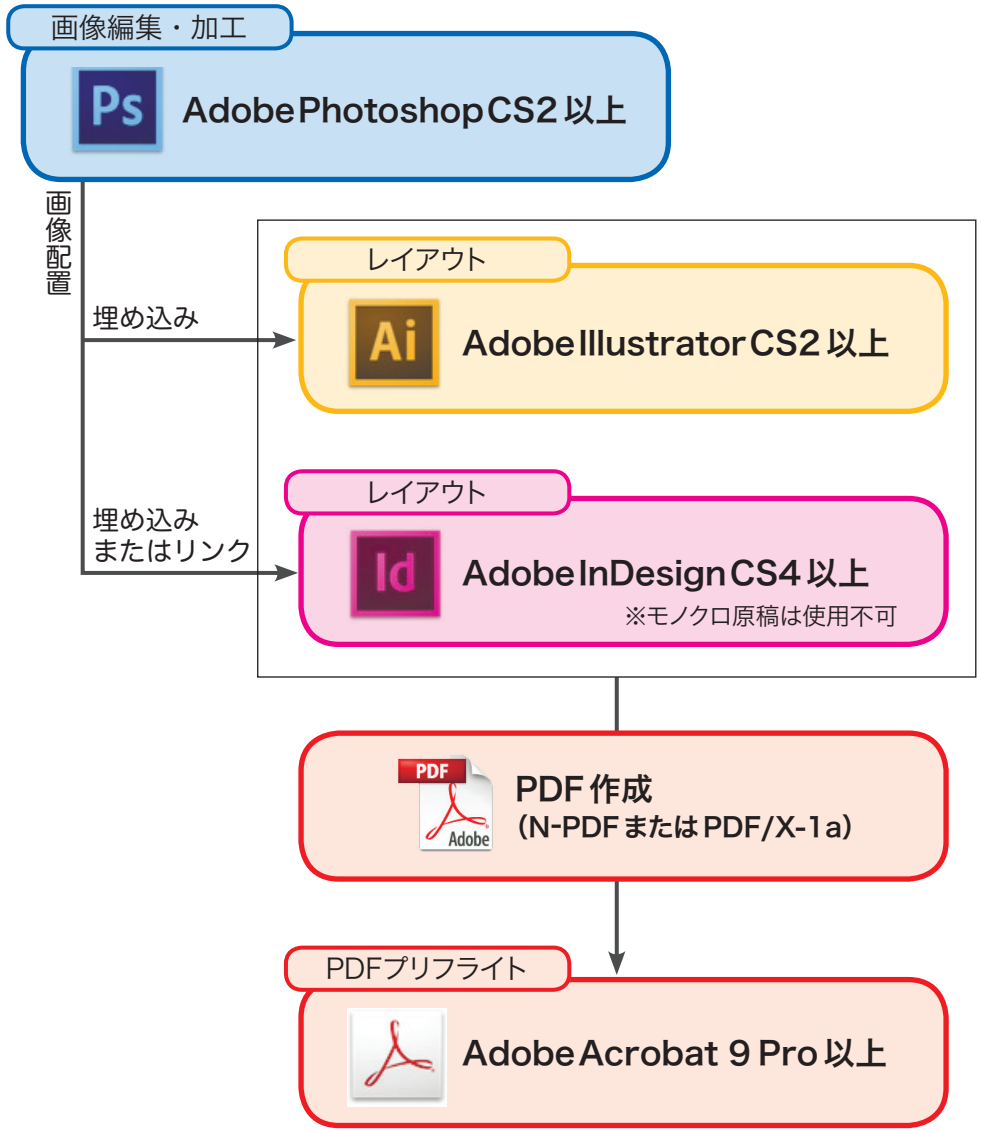
作成ソフトがなくてもデータが見られる！

高価なソフトは必要ありません！
パソコンでもスマホでも、閲覧するだけなら無料ソフトでOK！

汎用性が高い！

受け入れ可能な新聞社が増えています！
N-SIZEにも対応しているので、
新聞社ごとに作成しなくても1ファイルでOK！

■制作環境と送稿の流れ



■アプリケーション

◎下記のソフトを使用する。

- Adobe Photoshop CS2 以降
- Adobe Illustrator CS2 以降
- Adobe InDesign CS4 以降 **(※モノクロ原稿は使用不可)**
- Adobe Acrobat 9 Pro 以降 **(※データチェック用として必要)**

※メーカーよりアップデータが配布されている場合は適用してください。
※OS はアプリケーションのバージョンに適したものを使用してください。

■データ形式

◎ Illustrator および InDesign から書き出した **PDF 形式 (N-PDF または PDF/X-1a)**。
※ネイティブ形式 (AI など) および EPS 形式は送稿できません。
◎送稿データのファイル容量は 400MB 以下にする。
◎送稿前にプリフライト等でデータチェックを実施し、不備のないことを確認する。

■送稿方法

◎「Web 入稿」または「デジタルセンド」を利用したオンライン送稿。
※「Web 入稿」の利用に関しては、事前に登録された利用者 (広告会社) に限ります。
制作会社の方は、広告会社または弊社営業担当までお問い合わせください。

■送稿期日

◎通常紙面の場合、モノクロ・カラー原稿ともに「掲載日2日前の午後2時」まで。
※土曜、日曜、祝日の日数は除きます。

■制作準備［設定ファイルのダウンロード・読み込み］

①設定ファイルのダウンロード

日本広告業協会のWebサイトから「N-PDF設定ファイル」をダウンロードする。

1. 日本広告業協会（https://www.jaaa.ne.jp/2012/06/n_pdf/）にアクセスする。（または検索サイトから「N-PDF 日本広告業協会」と検索）
2. 「N-PDF設定ファイル（PDF設定/プリフライトプロファイル）」をダウンロードする。
3. ダウンロードしたファイル（ZIP圧縮）を解凍する。

PDFプリセット
（カラー・モノクロ共通）

N-PDF201207.joboptions

プリフライトプロファイル2種（Acrobat用）

カラー・単色専用

N-PDF2012v1.3カラー単色.kfp

モノクロ専用

N-PDF2012v1.3モノクロ.kfp

②AdobePDFプリセットの読み込み

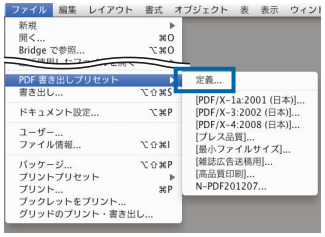
①でダウンロードした「AdobePDFプリセット」をアプリケーションに読み込む。

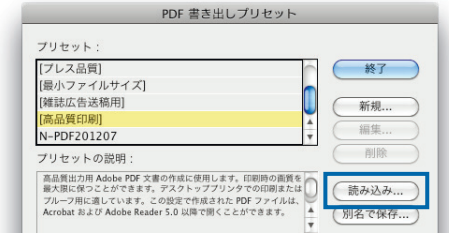
IllustratorCS2以上

1. 「編集」メニューから「AdobePDFプリセット」を開く。
2. 「読み込み」を選択し、ダウンロードした「N-PDF201207.joboptions」を読み込む。

InDesignCS4以上

1. 「ファイル」メニューから「PDF書き出しプリセット」→「定義」を開く。
2. 「読み込み」を選択し、ダウンロードした「N-PDF201207.joboptions」を読み込む。



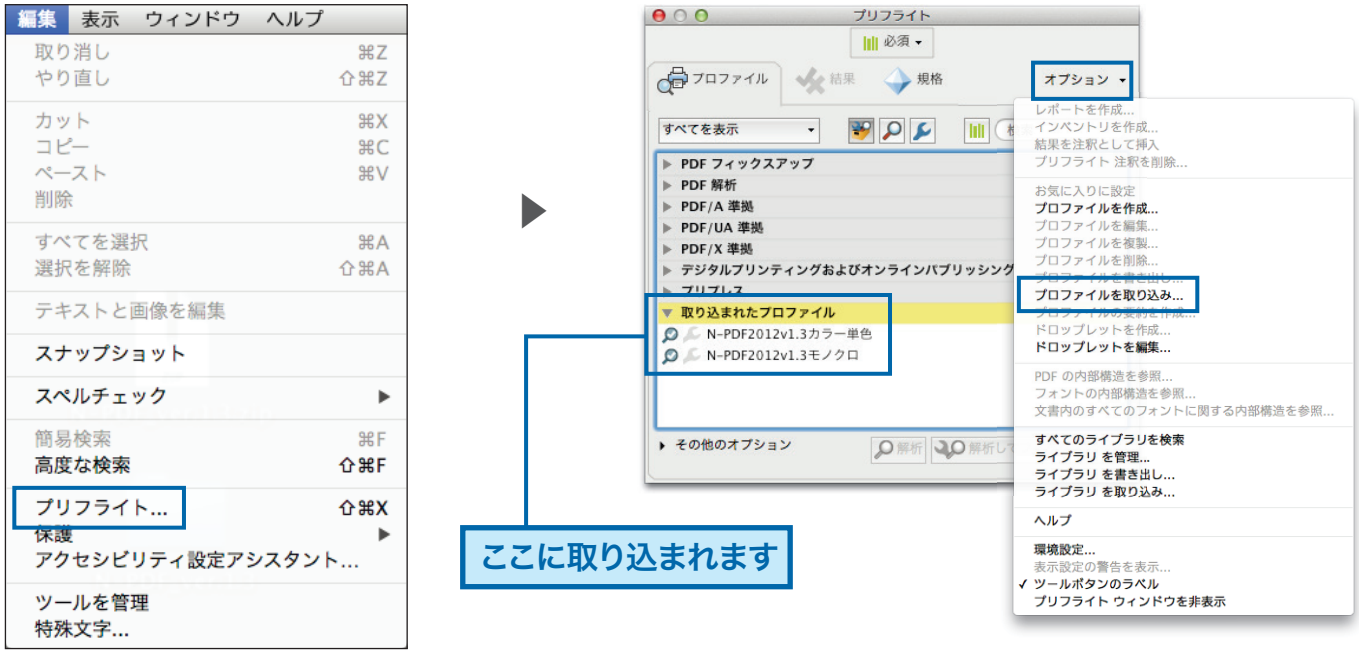


③プリフライトプロファイルの取り込み

①でダウンロードした「カラー・単色専用、モノクロ専用プリフライトプロファイル」を、AcrobatPro に取り込む。

Acrobat 9 Pro 以上

1. 「編集」メニューから「プリフライト」を開く。
   ▶Ver.9 は「アドバンスト」メニューから「プリフライト」を開く。
2. 「オプション」メニューから「プロファイルを取り込み」を選択する。
3. ①でダウンロードした「N-PDF2012v1.3 カラー単色 .kfp」または「N-PDF2012v1.3 モノクロ .kfp」を選択して取り込む。

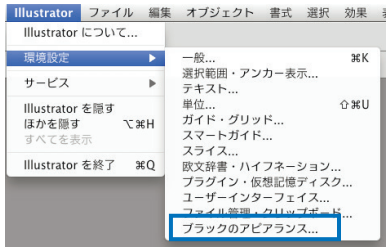


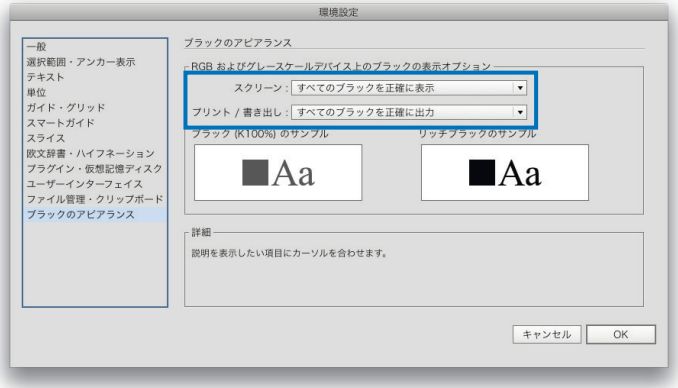
環境設定

「環境設定」を確認する。

IllustratorCS2以上

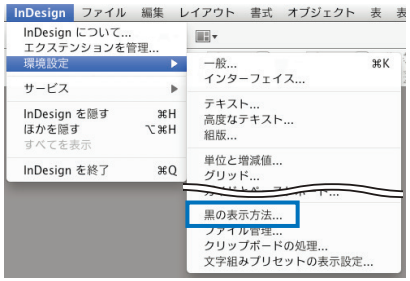
1. 「Illustrator」メニューから「環境設定」→「ブラックのアピアランス」を開く。
2. スクリーン：「すべてのブラックを正確に表示」に設定する。
3. プリント / 書き出し：「すべてのブラックを正確に出力」に設定する。

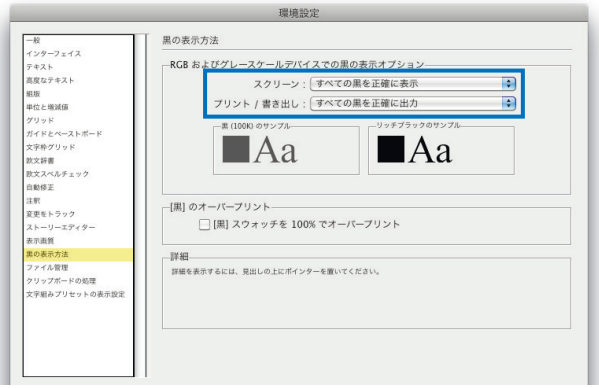




InDesignCS4以上

1. 「InDesign」メニューから「環境設定」→「黒の表示方法」を開く。
2. スクリーン：「すべての黒を正確に表示」に設定する。
3. プリント / 書き出し：「すべての黒を正確に出力」に設定する。





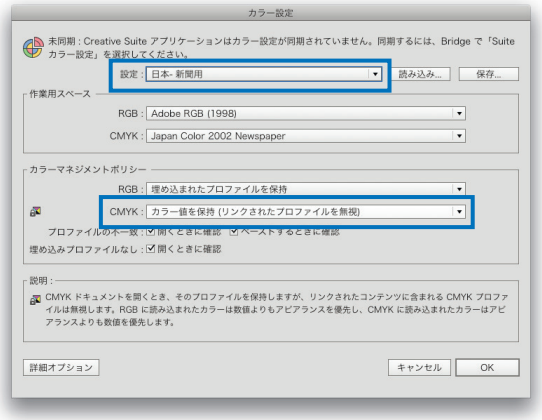
カラー設定

「カラー設定」を確認する。

Illustrator CS2 以上

1.「編集」メニューから「カラー設定」を開く。
2.「カラーマネジメントポリシー」のCMYKは「カラー値を保持（リンクされたプロファイルを無視）」を選択する。

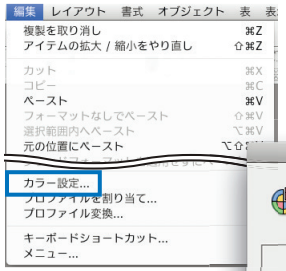
※「設定」のタブで「Adobe®Illustrator®5.5をエミュレート」は使用しないでください。

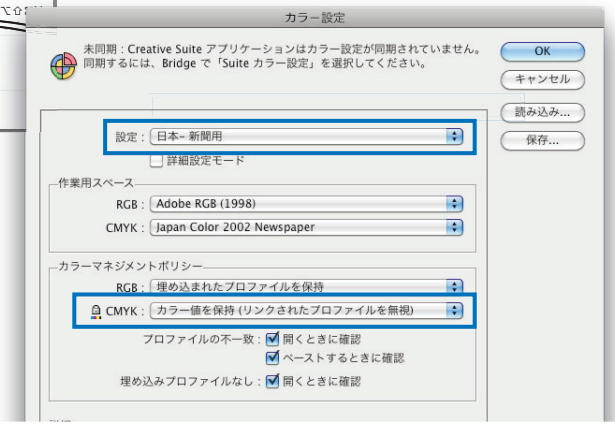


InDesign CS4 以上

1.「編集」メニューから「カラー設定」を開く。
2.「カラーマネジメントポリシー」のCMYKを「カラー値を保持（リンクされたプロファイルを無視）」に設定する。

※「設定」のタブで「Adobe®InDesign®2.0CMSエミュレートオフ」は使用しないでください。





原稿サイズ設定

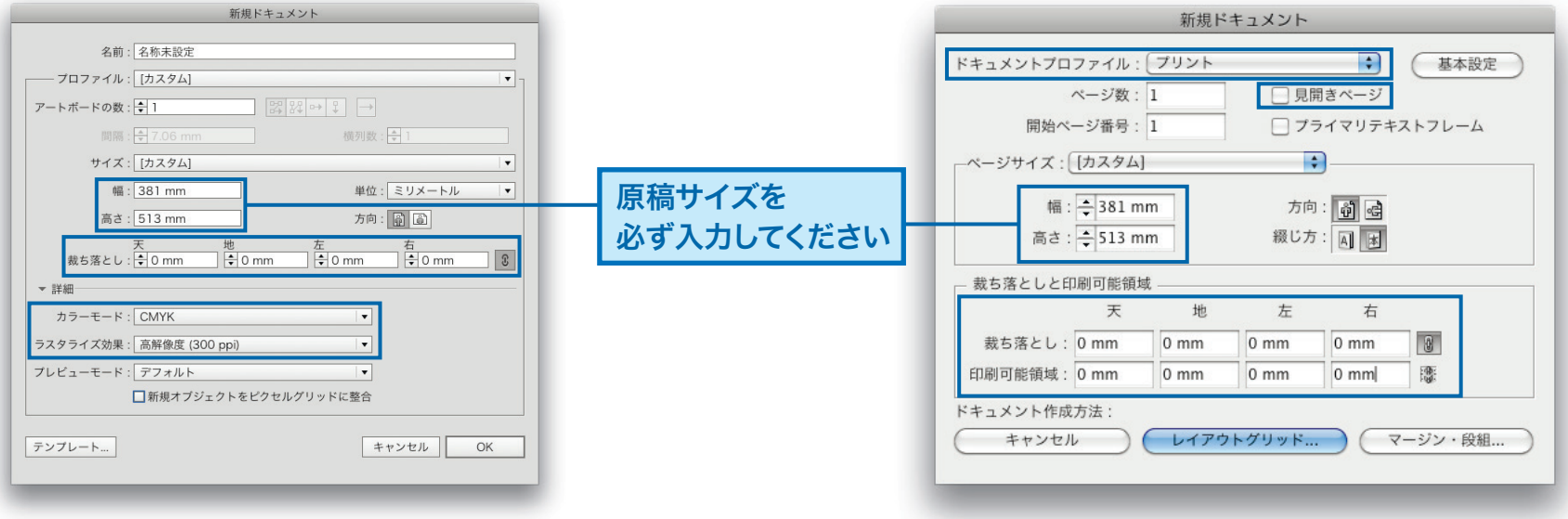
原稿サイズ（次ページに記載）を「アートボードサイズ」「ページサイズ」として設定する。カラーモードは「CMYK」に設定する。

Illustrator CS2 以上

1. 「ファイル」メニューから「新規」を開く。
2. 「幅」と「高さ」に**原稿サイズ**を入力する。
3. 「裁ち落とし※」を天地左右とも「0mm」に設定する。
   ※CS2、CS3には設定項目なし。
4. 「カラーモード」を「CMYK」に設定する。
5. 「ラスタライズ効果※」を「高解像度（300ppi）」に設定する。
   ※CS2は効果メニューから設定する。

InDesign CS4 以上

1. 「ファイル」メニューから「新規」→「ドキュメント」を開く。
2. 「ドキュメントプロファイル※」を「プリント」に設定する。
   ※CS4には設定項目なし。
3. 「見開きページ」にはチェックを入れない。
4. 「幅」と「高さ」に**原稿サイズ**を入力する。
5. 「裁ち落とし」と「印刷可能領域」は天地左右とも「0mm」に設定する。

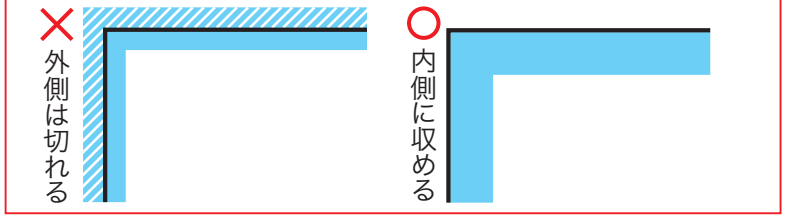


京都新聞の広告原稿サイズ

ブランケット			
天地		左右	
1段	32mm	1割(全幅)	381mm
2段	66mm	3/4割	286mm
3段	101mm	2割	190mm
4段	135mm	3割	126mm
5段	169mm	4割	94mm
6段	204mm	5割	75mm
7段	238mm	6割	62mm
8段	272mm	7割	53mm
9段	307mm	8割	46mm
10段	341mm	ワイド	788mm
11段	376mm	ワイド2割	391mm
12段	410mm		
13段	444mm		
14段	479mm		
15段	513mm		

タブロイド			
天地		左右	
1段	32mm	1割(全幅)	245mm
2段	66mm	2割	121mm
3段	101mm	3割	80mm
4段	135mm	4割	60mm
5段	169mm	ワイド	516mm
6段	204mm	ワイド2割	255mm
7段	238mm		
8段	272mm		
9段	307mm		
10段	341mm		
11段	376mm		

広告原稿はアートボードの内側に収めてください



N-SIZE（ブランケットのみ）			
天地		左右	
1段	32mm	1割(全幅)	378mm
2段	66mm	2割	188mm
3段	100mm	3割	126mm
4段	134mm	4割	94mm
5段	168mm	6割	62mm
6段	203mm	8割	46mm
7段	237mm	ワイド	784mm
8段	271mm		
9段	305mm		
10段	339mm		
11段	374mm		
12段	408mm		
13段	442mm		
14段	477mm		
15段	511mm		

日本新聞協会 推奨制作サイズ

N-SIZEによる送稿も可能です。弊社では全て自社サイズに変倍処理します。原寸での掲載をご希望の場合は、京都新聞の原稿サイズで制作してください。

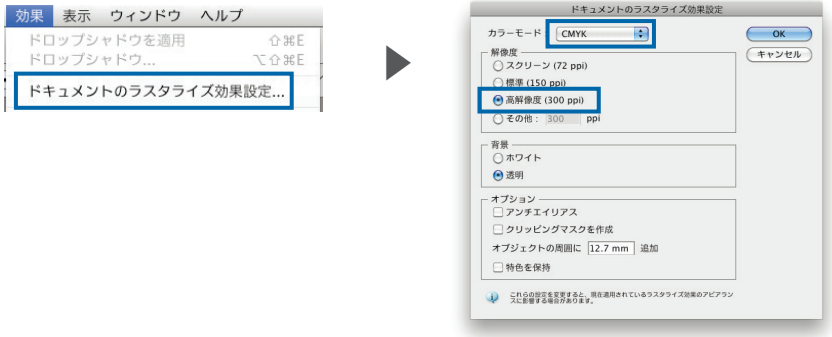
透明設定の確認

品質の劣化を招く可能性があるため、適切な透明設定を行う。

※制作を始める前に設定してください。
※制作途中で設定を変更しますと、広告の表現が大きく変わる可能性があります。十分にご注意ください。

IllustratorCS2以上

1.「効果」メニューから「ドキュメントのラスタライズ効果設定」を開く。
2.「カラーモード」を「CMYK」（カラー原稿）または「グレースケール」（モノクロ原稿）に設定する。
3.「解像度」を「高解像度（300ppi）」に設定する。



InDesignCS4以上

1.「編集」メニューから「透明ブレンド領域の設定」を「ドキュメントのCMYK領域を使用」に設定する。

文字サイズ・罫線の太さ

ヌキ文字の大きさを6 pt（約2.12mm）以上、
罫線の太さを0.3pt（約0.11mm）以上にする。

※上記未満のヌキ文字、罫線を使用すると、紙面上においてツブレ・カスレ・再現されないなど不都合が発生する場合がありますのでご注意ください。

フォント

フォントはエンベットせず、全てのフォントをアウトライン化する。
フォントデータを含む孤立点（余分なポイント）は全て削除する。

使用色

Ps Ai Id

原稿データ内に不要な版の色指定はしない。

カラー原稿

◎CMYK、グレースケール、モノクロ２階調のみ使用。
◎RGB、特色（スポット・カスタムカラー）、レジストレーションは使用不可。
※単色の指定はできません。

モノクロ原稿

◎グレースケール、モノクロ２階調のみ使用。
◎CMYK、RGB、特色（スポット・カスタムカラー）、レジストレーションは使用不可。

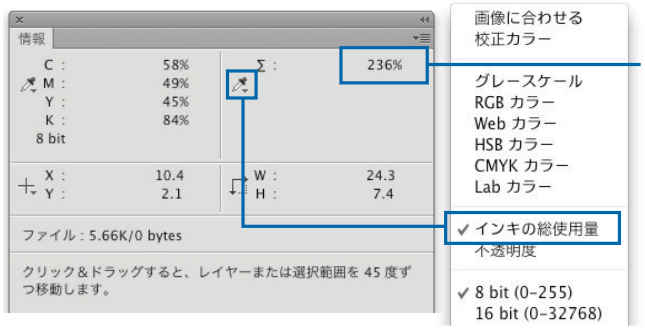
総インキ量（TAC値）

Ps Ai Id

全てのオブジェクト・画像の総インキ量（TAC値）を240%以下にする。

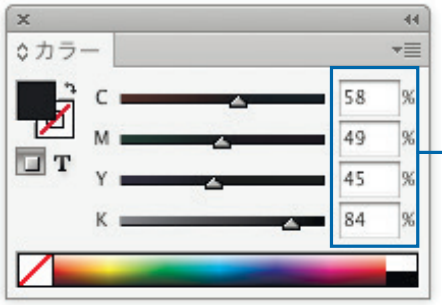
※CMYK各色のインキ総使用量をTAC（Total Area Coverage）値と言います。TAC値が高いとインキの盛り過ぎになり、広告紙面が汚れる可能性があります。TAC値240%は厳守してください。

Photoshop CS2以上



合計値を
240%以下に設定

Illustrator CS2以上　InDesign CS4以上



合計値を240%以下に設定

配置素材

画像・素材の配置は［ファイル］メニューから［配置］を選択して行い、他のアプリケーション上でコピーしたオブジェクトをペーストしない。

Illustratorに配置できるファイル

◎Photoshopで作成したPSD（推奨）、EPS、TIFF形式。

※配置した画像データは全て埋め込みを行ってください。リンク配置のままPDFを作成すると意図しない仕上がり結果となる場合があります。

※Illustratorのレイアウトファイル上にIllustratorファイルを配置する（ネスティング）処理は不可。

InDesignに配置できるファイル

◎Photoshopで作成したPSD（推奨）、EPS、TIFF形式。

◎Illustratorで作成したIllustrator形式（下位保存されたデータは使用不可）。

※Illustrator保存時の「Illustratorオプション」では、「PDF互換ファイルを作成」および「圧縮を使用」のみチェックを入れて保存する。

◎配置した画像データ・素材データはリンク配置、埋め込み配置どちらでも可。

Photoshop

◎CMYK、グレースケール画像は［8bit/チャンネル］を使用する。

◎多値画像は最終出力解像度が300ppi前後、2値画像は1200ppi前後にする。

◎拡大縮小率は多値、2値画像共に80～120%とする。

◎画像は適切な範囲でトリミングし、レイヤーは統合する。

◎ICCプロファイルの埋め込みはしない。ハーフトーンスクリーン（スクリーンパラメータ）の設定はしない。

◎画像データのフォーマットは、PSD（Photoshopネイティブ）形式を推奨。EPS、TIFF形式も使用可。

※2値画像を使用した場合、レイアウトデータの設定や構成によりPDF作成時に解像度やカラーモードが変化してしまう現象が報告されています。PDF上で確認をしていただくとともに、不具合が出た場合はトレースまたは別の保存形式（例：PhotoshopEPSをTIFFに）にて対応をお願いします。

EPS形式の［EPSオプション］

- ［エンコーディング］は、［ASCII85］を選択する。
- ［ハーフトーンスクリーンを含める］のチェックを外す。
- ［トランスファー関数を含める］のチェックを外す。
- ［ポストスクリプトカラーマネジメント］のチェックを外す。
- ［画像補間方式］のチェックを外す。

TIFF形式の［TIFFオプション］

- ［画像圧縮］は［なし］または［LZW］、［ZIP］を選択する。

※JPEG圧縮は不可。

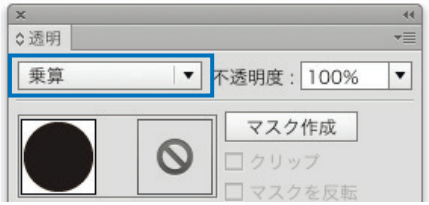
オーバープリント

アプリケーションの設定がそのまま反映されるので、ノセヌキはデータ作成時に正しく設定する。
K100%オブジェクトをノセ処理したい場合は、オーバープリントの設定ではなく、乗算を推奨する。
色網のオブジェクトにオーバープリント設定は不可。色網オブジェクトにオーバープリント設定を行いたい場合は、乗算を使用する。

※弊社ではK100%オブジェクトの［自動墨ノセ］は行いません。必要な場合はアプリケーションで設定してください。

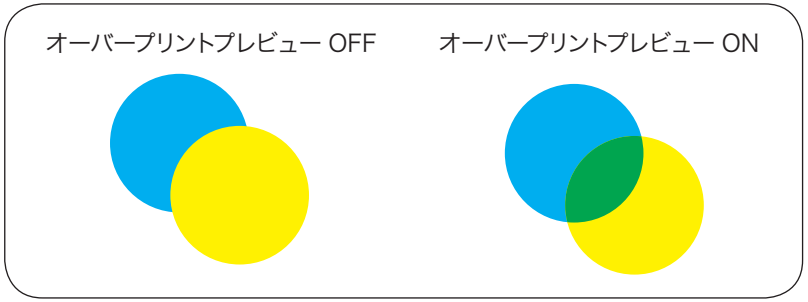
Illustrator CS2 以上　**InDesign CS2 以上**

1.「ウィンドウ」メニューから「透明」（InDesignは「効果」）を開く。
2. 適用するオブジェクトを選択する。
3.「乗算」を選択する。



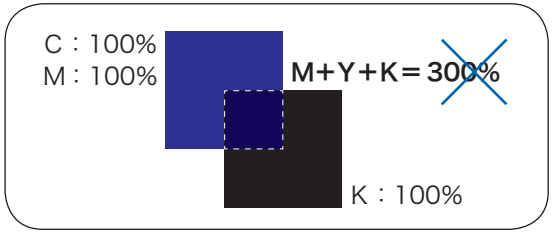
オーバープリントの確認方法

※「表示」メニューの「オーバープリントプレビュー」を活用してください。

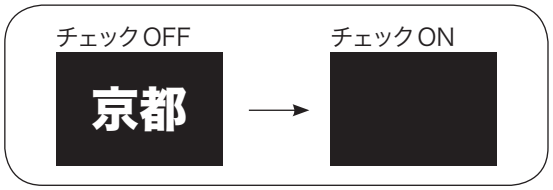


オーバープリント・乗算の注意事項

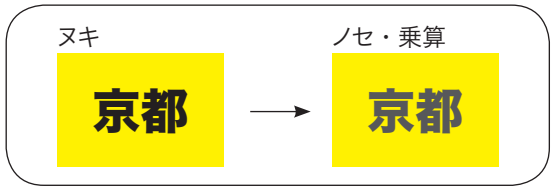
※ノセ部分のTAC値が240%を超えないように注意してください。



※白ノセ（前面が0%）は背面の色が出力されます。オーバープリントのチェックは必ず外してください。



※色の上にノセや乗算でスミを配置すると、スミに色が混じるため、スミの再現性が弱くなります。特に面積の大きい部分で見た目に影響が出ます。



パターンの分割

パターンを使用している場合は「分割・拡張」を行う。

※パターンオブジェクトの有無は「ウィンドウ」メニューから「ドキュメント情報」を開いて確認してください。

パターンオブジェクトの分割・拡張方法

1. パターンオブジェクトを選択する。
2. 「オブジェクト」メニューから「分割・拡張」を選択する。

スクリーン線数・角度・出力解像度

	モノクロ	カラー
スクリーン線数	200線	290線
スクリーン角度	K45°	C15°、M45°、Y0°、K75°
出力解像度	1200dpi	

※スクリーン線数および出力解像度は、京都新聞のシステム上の数値です。制作段階で設定をしていただく必要はありません。

※スクリーン角度は、反時計回りの数値です。

その他の注意事項

◎不要なオブジェクト・文字・孤立点（不要なアンカーポイント）・ガイドラインは、制作物の外側に残っている物も含め、すべて取り除いてください。

◎不要なレイヤーや、広告原稿に含まれない注釈などは入れないでください。

◎複雑なパスや、アンカーポイントが非常に多いデータは、出力エラーを起こすことがあります。画像ファイルに変換して配置するか、不要なアンカーポイントを削除するなど事前に回避してください。

◎グループ化はマスクや複合パスなど必要最低限に留め、オブジェクトはなるべくグループ化を解除し、ロックも外してください。

◎同じ色で重なり合うオブジェクトは合体させたり、レイアウト要素ごとに必要最低限にレイヤーを分けるか統合するなど、整理整頓されたファイルの作成にご協力をお願います。

■制作ルール［モノクロ原稿の確認・グレースケール化］

※モノクロPDFの作成にあたり、モノクロ原稿独自の注意点や確認事項、処理等が必要です。

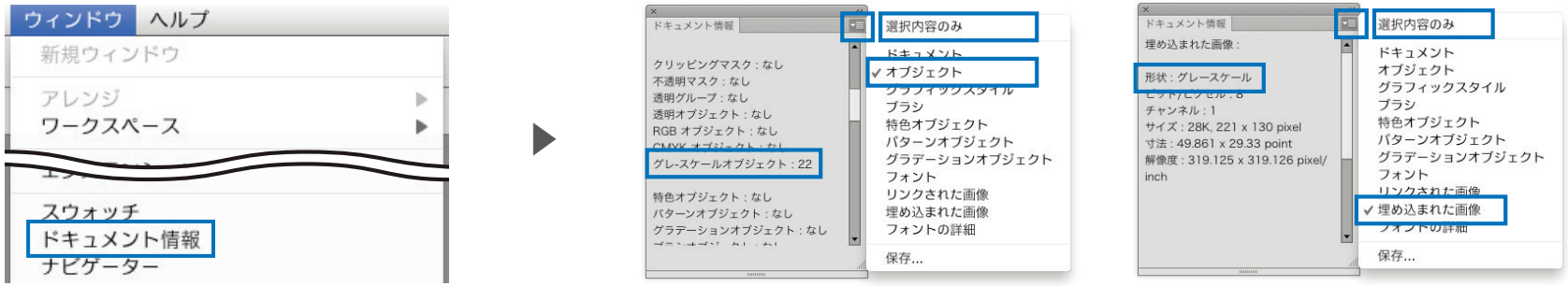
※AcrobatProのプリフライトで右図のようなエラーが表示された場合は、ドロップシャドウやぼかし等の透明機能が使われている可能性があります。

※下記の手順を参考に、原稿内のグレースケールオブジェクト確認およびグレースケールへの変換を行ってください。

・使用ソフトはIllustratorCS2以降、PhotoshopCS2以降のみ使用可。**InDesignの使用は不可**。
・原稿内のオブジェクトはグレースケールのみ使用する。CMY0%＋K0 ～ 100%、CMYK、RGB、特色（スポット・カスタムカラー）は使用不可。
・「効果」メニューの「ドキュメントのラスタライズ効果設定」にある「カラーモード」を「グレースケール」に設定する。
・「ウィンドウ」メニューの「ドキュメント情報」パネルにて、全てのオブジェクト・埋め込み画像がグレースケール・モノクロ2階調のみになっていることを確認する。
・配置画像に塗りの設定は行わない。
・透明オブジェクトを使用している場合は「アピアランスの分割」をした後、「透明部分の分割・統合」でプリセット「高解像度」を選択して分割・統合を行い、分割された画像を選択してグレースケールに変換する。

原稿内オブジェクトの確認方法

1.「ウィンドウ」メニューから「ドキュメント情報」パネルを表示する。
2.「ドキュメント情報」パネルのパネルメニューから「選択内容のみ」のチェックを外す。
3.「オブジェクト」を選択して、全てのオブジェクトがグレースケールのみになっていることを確認する。
4.「埋め込まれた画像」を選択して、全ての画像の「形状」がグレースケール・モノクロ2階調のみになっていることを確認する。



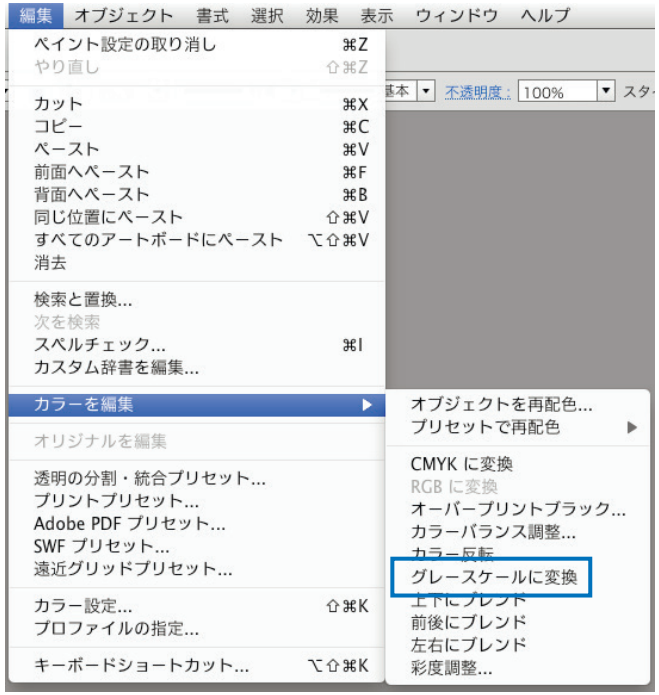
■制作ルール［モノクロ原稿の確認・グレースケール化］

グレースケールへの変換方法①

1. グレースケールに変換したいオブジェクトを選択する。
2. 「編集」メニューから「カラーを編集」→「グレースケールに変換」を開く。

※IllustratorCS2は「フィルタ」メニューから「グレー」→「グレースケールに変換」を開く。

※IllustratorCS2使用時はグラデーション等、一部のメニューでグレースケール変換が出来ません。グラデーションはスライダを一つずつ選択して右記の変換方法②を行ってください。



グレースケールへの変換方法②

1. グレースケールに変換したいオブジェクトを選択する。
2. 「ウィンドウ」メニューから「カラー」パネルを開く。
3. 「カラー」パネルのパネルメニューから「グレースケール」を選択する。

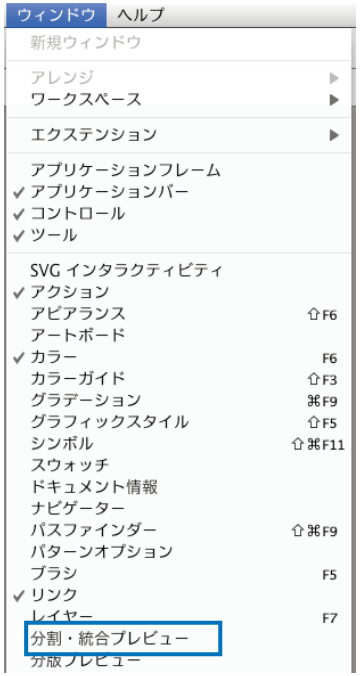
■制作ルール［モノクロ原稿の確認・グレースケール化］

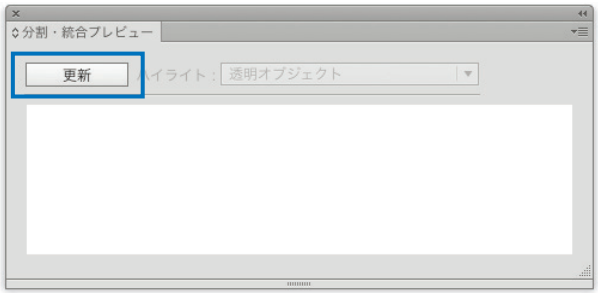
・全ての「効果」、「フィルターメニュー」、「透明オブジェクト」はCMYKでイメージが作成されるため、モノクロ原稿のPDFを作成する際は、透明オブジェクトをラスタライズ（透明の分割・統合）し、グレースケールモードに変換する必要があります。
・以降①～⑤の手順で処理を行ってください。

①透明オブジェクトが使用されている場所を特定する

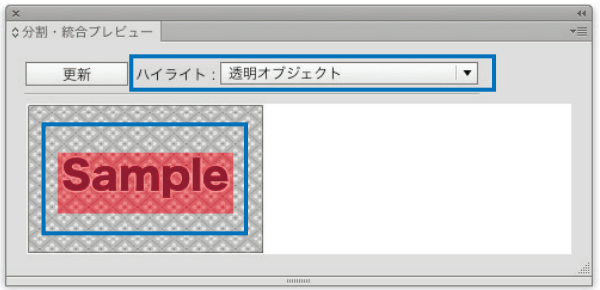
1.「ウィンドウ」メニューから「分割・統合プレビュー」パネルを開く。
2.「更新」ボタンをクリックする。
3.「ハイライト」から「透明オブジェクト※」を選択する。
4. 透明オブジェクトの使用箇所（赤色）を特定する。

※透明オブジェクトがグレーアウトされて選択できない場合はドキュメント上に透明機能が使用されていないので、以降の処理は不要です。





「更新」ボタンをクリックする。

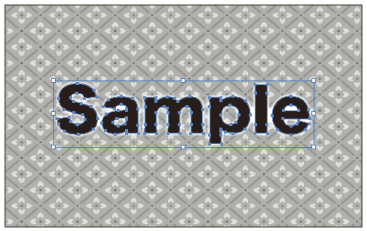


ハイライト［透明オブジェクト］を選択し、
透明オブジェクト使用箇所を特定する。

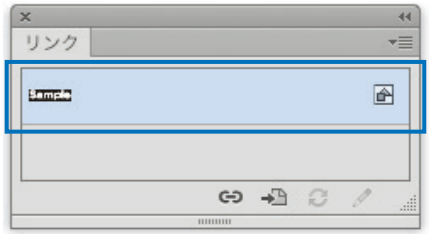
②アピアランスの分割（透明部分の画像化）

1. ①で確認した透明オブジェクトを選択する。
2. 「オブジェクト」メニューから「アピアランスを分割」を開く。

※「アピアランスを分割」がグレーアウトしている場合や、画像に透明効果を使用している場合の処理は不要です。



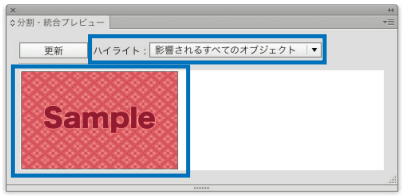
透明オブジェクトを選択する。



透明オブジェクトが画像化される。

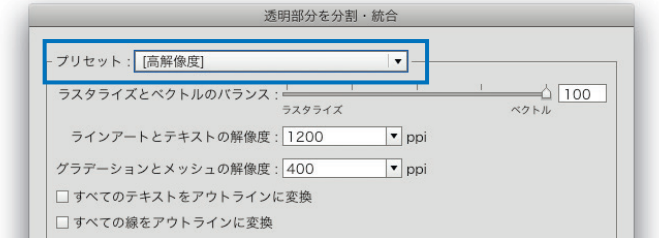
③透明部分の分割・統合

1. 「分割・統合プレビュー」パネルの「ハイライト」から「影響されるすべてのオブジェクト」を選択する。
2. 透明オブジェクトが影響するオブジェクトを確認する。
3. 影響されるすべてのオブジェクトを選択する。
4. 「オブジェクト」メニューから「透明部分を分割・統合」を選択する。
5. 「プリセット」から「高解像度」を選択して「OK」をクリックする。

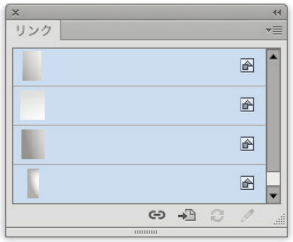


透明が影響されるすべてのオブジェクトを確認する。

透明が影響されるすべてのオブジェクトを選択する。



プリセットから「高解像度」を選択してOKをクリックする。

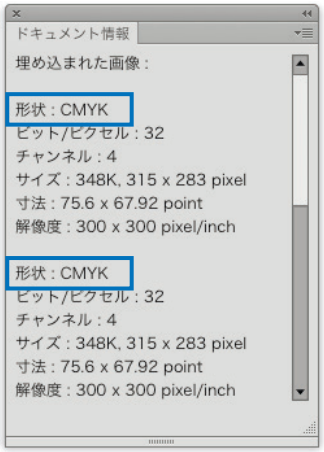


透明オブジェクトが分割され、ドキュメント内の透明属性がなくなる。

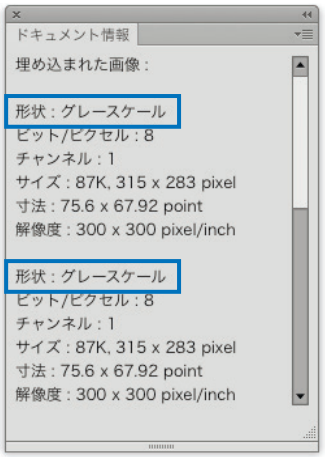
④分割した画像のグレースケール化

1．「オブジェクト」メニューの「透明部分を分割･統合」で作成した画像はCMYKモードに変換されてしまうため、「編集」メニューの「カラーを編集」から「グレースケールに変換」でグレースケール化を行う。

※IllustratorCS2は「フィルタ」メニューから「カラー」→「グレースケールに変換」を選択する。



分割・統合により画像が
CMYKモードに。



該当部分を選択して、
［グレースケールに変換］を選択する。

⑤最終確認

14ページの「原稿内オブジェクトの確認方法」を参照して、原稿内のオブジェクト・画像がグレースケール・モノクロ2階調のみで作成されているか最終確認を行ってからPDFを作成する。

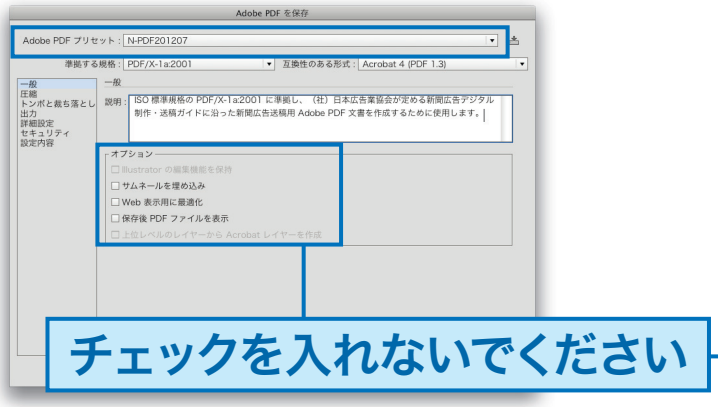
PDFの書き出し

「N-PDF」または「PDF/X-1a」を利用して、Illustrator・InDesignから最終送稿PDFデータを保存する。
最終送稿PDFデータのフォーマットはPDF形式、作業中のデータ保存はネイティブ形式を利用する。
※AcrobatDistillerやその他のアプリケーションからは送稿用PDFデータを作成しない。

IllustratorCS2以上

1. 「ファイル」メニューから「複製を保存」を開く。
2. 「フォーマット」から［AdobePDF（pdf）］を選択する。
   ▶【CS6】［フォーマット］から［ファイル形式］を選択する。
3. ファイル名と保存場所を指定して「保存」をクリックする。
4. 「AdobePDFプリセット」から「N-PDF201207※1」を選択する。
5. 最後に「PDFを保存」をクリックする。

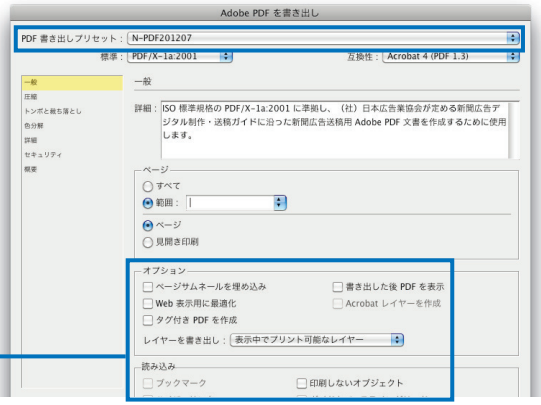
※1：「N-PDF201207」の選択ができない場合は3ページの設定を行ってください。
※1：「PDF/X-1a:2001（日本）」による送稿も可能です。



InDesignCS4以上

1. 「ファイル」メニューから「書き出し」を開く。
2. 「フォーマット」から「AdobePDF（プリント）」を選択する。
   ▶【CS4】「フォーマット」から「AdobePDF」を選択する。
   ▶【CS6】「形式」から「AdobePDF（プリント）」を選択する。
3. ファイル名と保存場所を指定して「保存」をクリックする。
4. 「PDF書き出しプリセット」からまたは「N-PDF201207※1」を選択する。
5. 「書き出し」をクリックする。

※1：「N-PDF201207」の選択ができない場合は3ページの設定を行ってください。
※1：「PDF/X-1a:2001（日本）」による送稿も可能です。

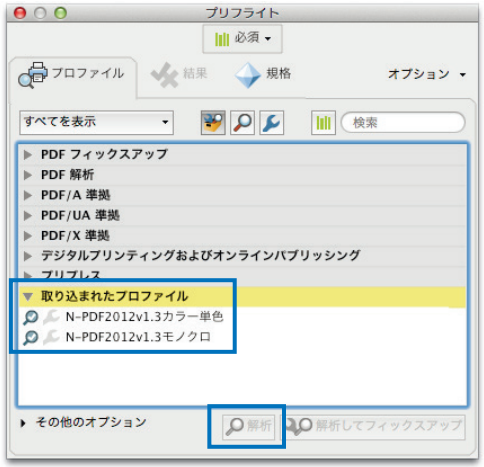


プリフライトの実施

原稿の色種別に応じた「カラー・単色原稿専用」「モノクロ原稿専用」プリフライトプロファイルを用いて、最終送稿用PDFデータの検査を行う。

AcrobatProのプリフライト手順

1.「編集」メニューから「プリフライト」を開く。
   ▶ver.9は「アドバンスト」メニューから「プリフライト」を開く。
2.「取り込まれたプロファイル」から以下を選択する。
   ▶モノクロ原稿は「N-PDF2012v1.3モノクロ」を選択。
   ▶カラー原稿は「N-PDF2012v1.3カラー単色」を選択
3.「解析」をクリックする。



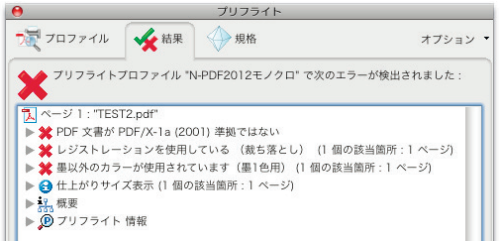
参考

プリフライトで、パターンオブジェクトが検出された場合、「4Cまたは特色以外のカラーを使用」「パターンを使用している」のエラーが表示されます。これは、パターンの検出に合わせて表示されています。そのため、パターンオブジェクトに分割・拡張処理を行う事でエラーを回避できます。(右図参照)

○確認が必要なレポート：確認後、送稿可

PDFの仕上がりサイズは情報項目として必ず表示されます。サイズ以外の情報項目を確認後、問題があればレイアウトデータに戻り修正する。

×エラーが検出されたレポート：送稿不可



レイアウトデータに戻り不備箇所を修正する。

AdobeAcrobatProで動作する規定のプリフライトチェックでは、「K100%オブジェクトのオーバープリント設定」と「インキ総量(TAC値)」のチェック※は行えません。
最終送稿用PDFデータから出力した見本ゲラで目視確認するとともに、「出力プレビュー」を活用して次ページの確認が必要です。
※「オーバープリント処理後のインキ総量(TAC値)」、「グラデーションのインキ総量(TAC値)」、「画像のインキ総量(TAC値)」

オーバープリント・総インキ量 (TAC 値) の確認

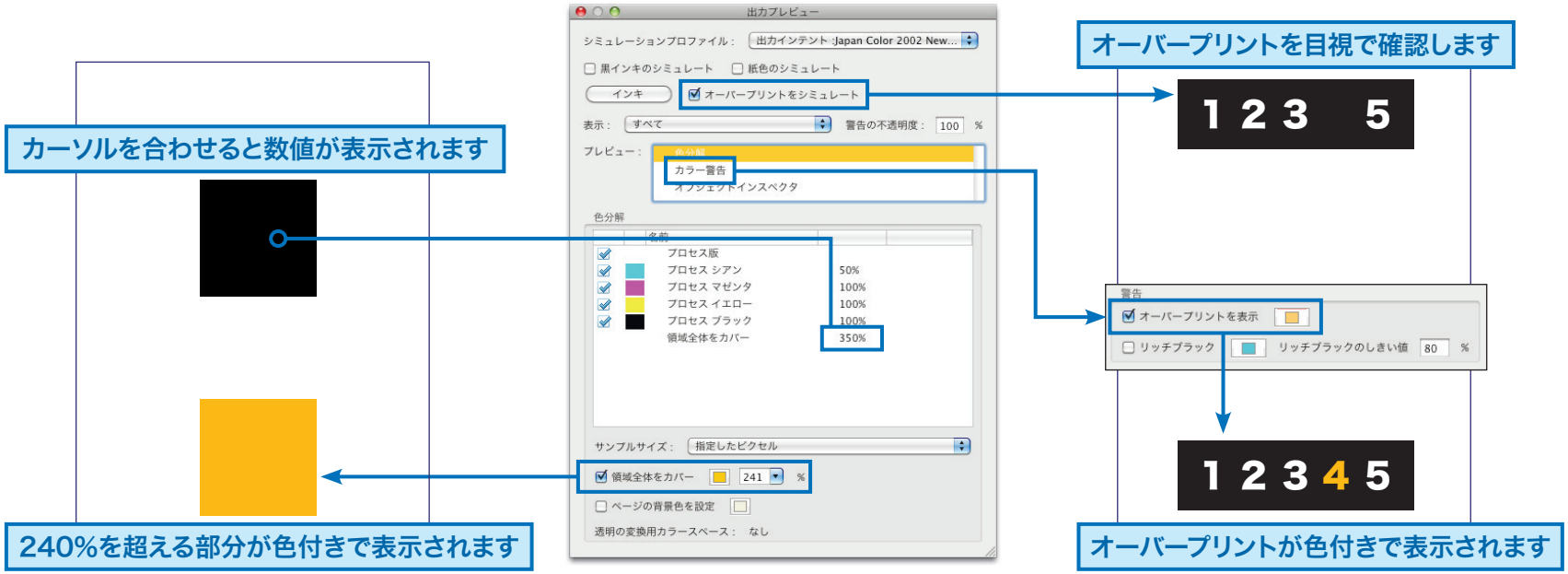
「プリフライト」で確認できない項目は、「出力プレビュー」を活用して、作成した PDF ファイルが意図したノセヌキ結果となっていることや、総インキ量 (TAC 値) の検証を行う。

総インキ量 (TAC 値) の確認方法

1. 「表示」メニューから「ツール」→「印刷工程」→「出力プレビュー」を開く。
   ▶ver.9 は「アドバンスト」メニューから「印刷工程」→「出力プレビュー」
2. 「領域全体をカバー」にチェックを入れてから 241%を入力すると、総インキ量 (TAC 値) が 240%を超える部分が色付き (色の変更可) で警告表示される。この状態で、警告表示された部分にカーソルを移動すると「色分解」ウィンドウにインキ量が表示される。

オーバープリントの確認方法

1. 左記「1.」と同じ。
2. 「オーバープリントをシミュレート」のチェックを入れ、画面上でオーバープリントを目視で確認する。
4. 「色分解」パネルで各版を個別に確認する。
5. 「カラー警告」パネルで「オーバープリントを表示」にチェックを入れる。

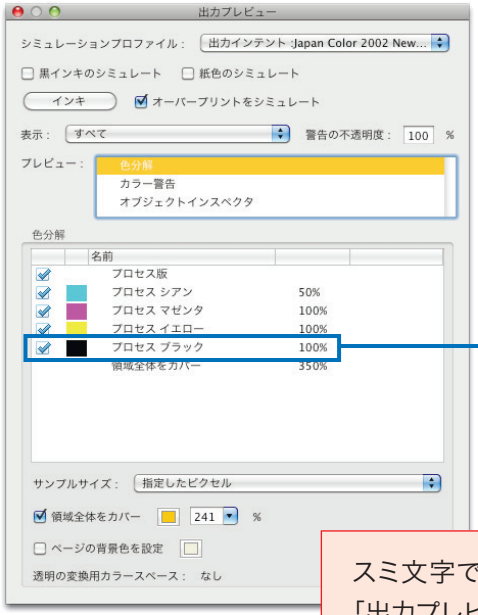


CMYK 各版の使用状況を確認

「出力プレビュー」を活用して、意図しない色の使用（特にスミ 1 色にカラーが混在）をしていないか、CMYK 各版の使用状況を確認する。

出力プレビューの確認方法

1. 「表示」メニューから「ツール」→「印刷工程」→「出力プレビュー」を開く。
   ▶ver.9 は [アドバンスト] メニューから [印刷工程] → [出力プレビュー]
2. 「色分解」項目にある「プロセスブラック」のチェックを外す。
3. スミ版のみ画面上から消えるので、意図しない色が残っていないか目視で確認する。



※ [プロセスブラック] のチェックを外す

スミ文字でも同様のトラブルが起こります。
「出力プレビュー」で必ず確認してください。

【OK】
スミ 1 色の二次元コード

スミ以外は何もないので表示は消えます。問題はありません。

にじむことはありません。

【NG】
色が混在している二次元コード

スミ以外に色が使用されていると残ります。

修正せずにそのまま印刷すると

にじみが原因で、読み取れない場合があります。

※画像データ修正後はレイアウトソフトを開き、画像を差し替えて保存してください

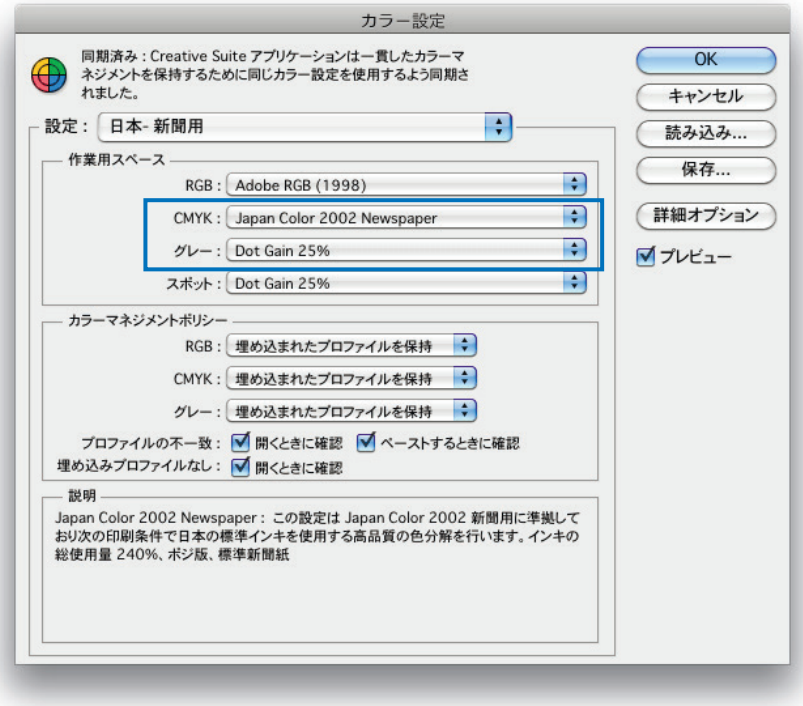
カラー設定

RGB→CMYK 変換時の TAC 値を 240%以下にするため、CMYK 変換プロファイルは「Japan Color 2002 Newspaper」を使用する。
グレー変換プロファイルは「Dot Gain 25%」を使用する。

Photoshop のカラー設定

1. 「Photoshop（または編集）」メニューから「カラー設定」を開く。
2. 「作業用スペース」の「CMYK」から「Japan Color 2002 Newspaper」を選択する。
3. 「作業用スペース」の「グレー」から「DotGain25%」を選択する。
4. 「OK」をクリックする。

※上記以外の設定は、ご使用の環境に合わせて設定してください。



※画像データ修正後はレイアウトソフトを開き、画像を差し替えて保存してください

画像補正について

適切な色補正を行うために、原則として画像補正はCMYK（またはグレースケール）変換前のRGBモードで行う。

RGBモードによる基本的な補正の流れ（あくまで一例です）

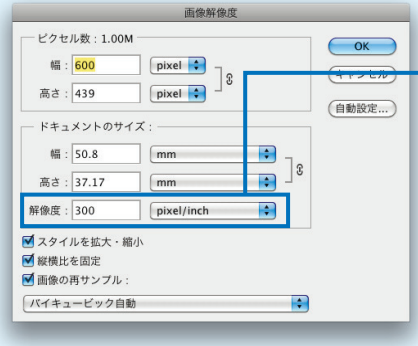
①トリミング・画像解像度の設定

・レイアウトに合わせてトリミングを行い、画像解像度は最終掲載サイズで300ppi前後になるように設定します。

▼トリミングの一例

不要な部分を省くことで、ファイル容量を削減できます

▼「イメージ」→「画像解像度」



単位は［pixel/inch］（ppi）

レイアウトソフト上で画像サイズを大幅に縮小すると、画像解像度が極端に高くなり、データ量も増大します。必ずPhotoshop上で適切な掲載サイズに調整してください。

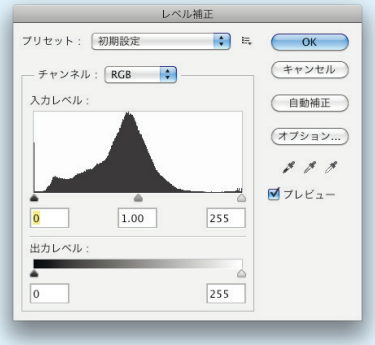
②階調の補正

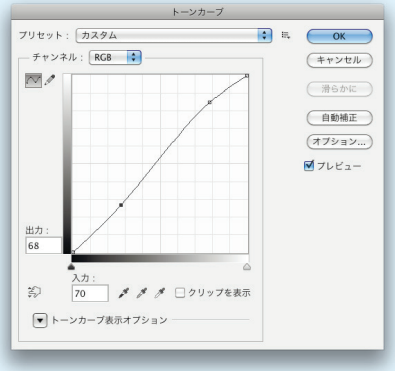
・「レベル補正」や「トーンカーブ」で、明るさやコントラストを調整します。

※グレースケール画像の場合は、ハイライトを2%（キャッチライトを除く）を目安に調整してください。2%未満の網点は再現できない恐れがありますのでご注意ください。

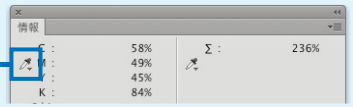
※RGBモードによる調整中でも、［情報］パネルでCMYK変換後の数値を確認することができます。

▼「イメージ」→「色調補正」→「レベル補正」（左）、「トーンカーブ」（右）





▼「ウィンドウ」→「情報」



［CMYK］を選択

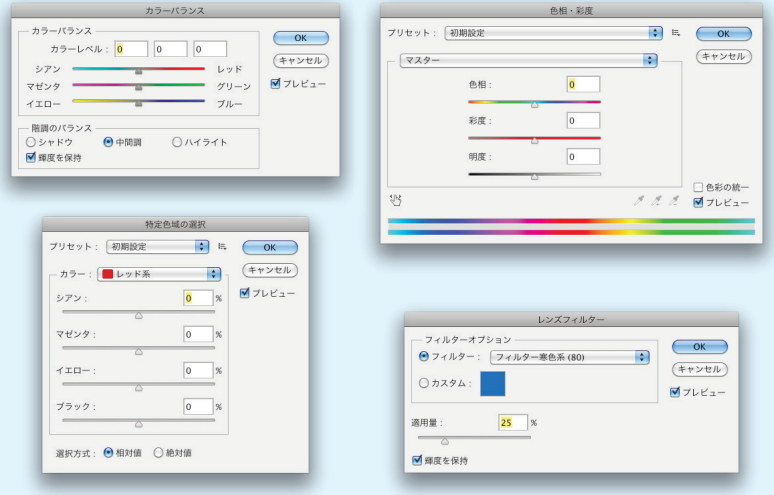
※画像データ修正後はレイアウトソフトを開き、画像を差し替えて保存してください

画像補正について

③色調の補正

・「カラーバランス」、「色相・彩度」、「特定色域の選択」、「レンズフィルター」などで、全体の色カブリや特定色を補正します。

▼「イメージ」→「色調補正」→「カラーバランス」（左上）、
「色相・彩度」（右上）、「特定色域の選択」（左下）、「レンズフィルター」（右下）



④CMYK（またはグレースケール）変換

※事前に「カラー設定」（23ページ）を確認してください。

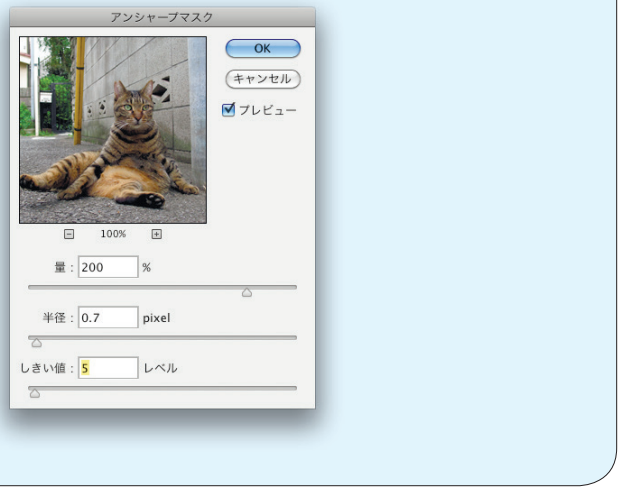
・「イメージ」→「モード」から「CMYK（またはグレースケール）」を選択します。

⑤アンシャープマスク（④の前に行っていただいても構いません）

・「アンシャープマスク」等を使用して画像をシャープにします。

※「アンシャープマスク」は、画像の画面表示を100%にして、適用量は画面上で少しきつく感じる程度に調整してください。

▼「フィルタ」→「シャープ」→「アンシャープマスク」



⑥ファイル保存

・PSD（推奨）、EPS、TIFF形式のいずれかで保存します。

※画像データ修正後はレイアウトソフトを開き、画像を差し替えて保存してください

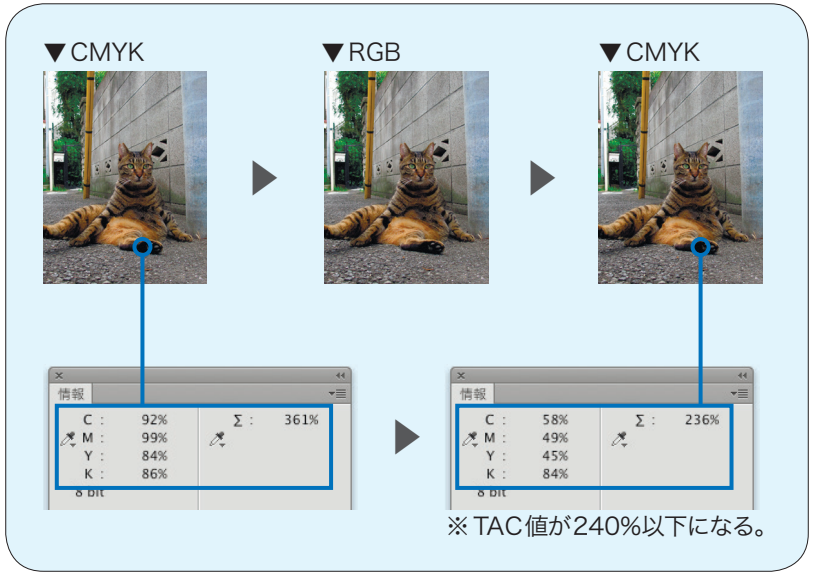
TAC値240%を超えるCMYK画像しかない場合の調整方法

※「RGB画像がない」という場合は下記の方法をお試しください。

「CMYK」→「RGB」→「CMYK」の順に変換してTAC値を制限

※事前に「カラー設定」（23ページ）を確認してください。

1. TAC値オーバーのCMYK画像をPhotoshopで開く。
2. 「イメージ」メニューから「モード」→「RGB」を選択する。
3. 「イメージ」メニューから「モード」→「CMYK」を選択する。

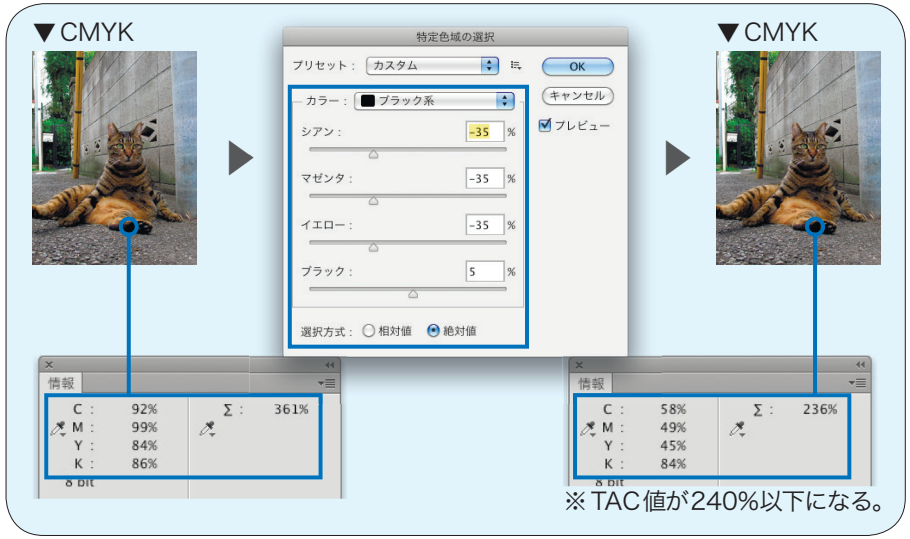


※TAC値が240%以下になる。

「特定色域の選択」でTAC値を制限

1. TAC値オーバーのCMYK画像をPhotoshopで開く。
2. 「イメージ」メニューから「色調補正」→「特定色域の選択」を選択する。
3. 「カラー」から「ブラック系」を選択する。
4. 「選択方式」から「絶対値」を選択する。
5. 各色のスライダを調整してTAC値を240%以下※にする。

※「情報」パネルでCMYK数値を確認しながら調整してください。



※TAC値が240%以下になる。

※スミの数値が極端に低いとコントラスト不足になるので注意が必要です。
※上記の調整例はTAC値の制限を目的にしたものです。写真の色合いに関しては目的に応じた補正が別途必要です。

[参考資料]

「新聞広告デジタル制作ガイド N-PDF ver.1.3（2022）」（㈳日本広告業協会）

「NSAC2017 運用ガイド」（㈳日本広告業協会）

京都新聞 広告 制作・送稿ガイド

発行：2025 年 4 月

<本ガイドに対するご意見、質問のお問い合わせ先>
京都新聞COM営業局編成部　TEL：075-241-5839　E-mail：hensei@mb.kyoto-np.co.jp

■本ガイドの仕様は予告なく変更される場合があります。ご了承ください。

■本ガイドの最新情報は AD COMPASS（https://pr.kyoto-np.jp/ad/guide/）をご覧ください。

Apple、Macintosh、MacOS は Apple inc. の商標で、米国および各国で登録されています。
Adobe Acrobat、Illustrator、Photoshop、InDesign および Postscript は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
その他記載されているブランド名・製品名は、個々の所有者の商標、もしくは登録商標です。